

令和5年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		北海道		市町村類型	Ⅳ－１		指定団体等の指定状況		区分	令和5年度(千円)	令和4年度(千円)	区分	令和5年度(千円・%)	令和4年度(千円・%)
							財政健全化等	×	歳入総額	91,390,281	91,151,075	実質収支比率	3.4	4.8
市町村名		帯広市		地方交付税種地	1-5		財源超過	×	歳出総額	89,851,943	89,097,684	経常収支比率	89.4	89.6
							首都	×	歳入歳出差引	1,538,338	2,053,391	(※1)	(90.1)	(90.6)
							近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	89,746	39,612	標準財政規模	42,662,066	42,285,624
								×	実質収支	1,448,592	2,013,779	財政力指数	0.60	0.60
人口		令和2年国調(人)	166,536	産業構造 (※5)			中部	×	単年度収支	-565,187	-242,532	公債費負担比率	13.7	14.4
		平成27年国調(人)	169,327				過疎	×	積立金	1,191,607	1,229,457	健全化判断比率		
		増減率 (％)	-1.6				山振	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-
住民基本台帳人口 (※7)		令06.01.01(人)	162,460	区分	令和2年国調	平成27年国調	低開発	○	積立金取崩し額	34,674	0	連結実質赤字比率	-	-
		うち日本人(人)	161,186		3,616	3,923	指数表選定	○	実質単年度収支	591,746	986,925	実質公債費比率	8.2	8.3
		令05.01.01(人)	164,014	第1次	5.1	5.3					将来負担比率	22.2	38.0	
		うち日本人(人)	162,999		12,675	14,264								
		増減率 (％)	-0.9	第2次	18.0	19.2								
		うち日本人(%)	-1.1		54,217	56,126								
面積 (km ²)		619.34			76.9	75.5			基準財政収入額	22,099,078	21,465,049	資金不足比率 (※4)		
人口密度 (人/km ²)		269							基準財政需要額	36,506,647	35,919,452			
世帯数 (世帯)		80,175					標準税収入額等	27,786,524	27,063,409					
							経常経費充当一般財源等	40,010,100	40,055,115					
							繰入一般財源等	53,645,124	51,904,311					
職員の状況 (※8)														
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	68,907,779	73,378,583			
	市区町村長	1	10,050		一般職員	1,128	3,368,208	2,986	うち公的資金	43,395,957	46,735,551			
	副市区町村長	2	8,050		うち消防職員	180	568,440	3,158	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	44,568,850	46,890,923			
	教育長	1	6,930		うち技能労務職員	43	118,035	2,745	債務負担行為額(支出予定額)	26,687,801	30,166,288			
	議会議長	1	5,800		教育公務員	54	217,324	4,025	収益事業収入	13,263	15,520			
	議会副議長	1	5,100		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-			
	議会議員	27	4,700		合計	1,182	3,585,532	3,033	積立金現在高	4,067,727	2,910,794			
									減債基金	756	756			
									その他特定目的基金	6,132,331	5,545,556			
	一般会計等の一覧													
項番	会計名	事業会計の一覧	項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	組合等名	関係する一部事務組合等一覧	項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険会計	(8)	水道事業会計	(10)	とかち広域消防事務組合	(11)	十勝圏複合事務組合	(13)	帯広市休日夜間急病対策協会			
(2)	中島公園事業会計	(4)	後期高齢者医療会計	(9)	下水道事業会計	(12)	十勝中部広域水道企業団	(15)	帯広市農業振興公社	(16)	帯広市土地開発公社			
		(5)	介護保険会計											
		(6)	ばんえい競馬会計											
		(7)	駐車場事業会計											

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
※6：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
※7：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※8：職員の状況については、調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	23,293,653	25.5	21,638,092	48.7	普通税	21,614,912	92.8	254,628
地方譲与税	1,041,740	1.1	1,041,740	2.3	法定普通税	21,614,912	92.8	254,628
利子割交付金	7,875	0.0	7,875	0.0	市町村民税	10,752,124	46.2	254,628
配当割交付金	73,012	0.1	73,012	0.2	個人均等割	294,437	1.3	-
株式等譲渡所得割交付金	84,212	0.1	84,212	0.2	所得割	8,928,443	38.3	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	575,813	2.5	-
地方消費税交付金	4,579,022	5.0	4,579,022	10.3	法人税割	953,431	4.1	254,628
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	固定資産税	8,693,561	37.3	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	8,643,117	37.1	-
自動車取得税交付金	6,018	0.0	6,018	0.0	軽自動車税	506,229	2.2	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	1,662,998	7.1	-
自動車税環境性能割交付金	72,480	0.1	72,480	0.2	鉱産税	-	-	-
法人事業税交付金	387,881	0.4	387,881	0.9	特別土地保有税	-	-	-
地方特例交付金等	172,857	0.2	172,857	0.4	法定外普通税	-	-	-
地方特例交付金	158,804	0.2	158,804	0.4	目的税	1,678,741	7.2	-
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	14,053	0.0	14,053	0.0	法定目的税	1,678,741	7.2	-
地方交付税	15,349,618	16.8	14,526,751	32.7	入湯税	23,180	0.1	-
普通交付税	14,526,751	15.9	14,526,751	32.7	事業所税	-	-	-
特別交付税	822,867	0.9	-	-	都市計画税	1,655,561	7.1	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	水利地益税等	-	-	-
（一般財源計）	45,068,368	49.3	42,589,940	95.9	法定外目的税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	22,202	0.0	22,202	0.1	旧法による税	-	-	-
分担金・負担金	1,018,143	1.1	-	-	合計	23,293,653	100.0	254,628
使用料	1,086,695	1.2	85,157	0.2				
手数料	468,035	0.5	-	-	区分	令和5年度	令和4年度	
国庫支出金	20,012,353	21.9	-	-	徴収率	現 年	計	
国有提供交付金（特別区財調交付金）	220,055	0.2	220,055	0.5	合計	99.3	98.0	99.2 97.7
都道府県支出金	6,263,109	6.9	-	-	市町村民税	99.0	97.4	98.8 97.2
財産収入	449,482	0.5	2,400	0.0	純固定資産税	99.6	98.2	99.4 97.9
寄附金	1,322,713	1.4	-	-				
繰入金	360,658	0.4	-	-	公営事業等への繰出			
繰越金	2,053,391	2.2	-	-	合計	7,080,696	国民健康保険事業会計の状況	
諸収入	9,822,886	10.7	1,481,942	3.3	下水道	1,364,574	実質収支	73,138
地方債	3,222,191	3.5	-	-	上水道	720,596	再差引収支	-199,976
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-	工業用水道	-	加入世帯数（世帯）	20,518
うち臨時財政対策債	348,791	0.4	-	-	交通	-	被保険者数（人）	29,864
歳入合計	91,390,281	100.0	44,401,696	100.0	国民健康保険	1,742,342	被保険者	102
					その他	3,253,184	1人当り	361
							保険税（料）収入額	-
							国庫支出金	-
							保険給付費	361

（注釈）

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額（A）	構成比	（A）のうち普通建設事業費	（A）のうち充当一般財源等	
議会費	408,816	0.5	-	-	408,775
総務費	6,815,589	7.6	9,013	-	5,297,511
民生費	37,224,976	41.4	83,833	-	17,716,840
衛生費	5,557,212	6.2	56,813	-	4,499,834
労働費	85,169	0.1	-	-	82,094
農林水産業費	4,361,205	4.9	884,076	-	776,489
商工費	6,281,856	7.0	6,127	-	1,239,779
土木費	8,274,234	9.2	3,601,147	-	4,664,158
消防費	3,592,466	4.0	222,461	-	3,361,822
教育費	9,187,820	10.2	1,610,549	-	6,684,772
災害復旧費	-	-	-	-	-
公債費	8,062,600	9.0	-	-	7,374,712
諸支出金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
歳出合計	89,851,943	100.0	6,474,019	-	52,106,786
性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	46,337,877	51.6	27,486,958	24,431,199	54.6
人件費	10,917,279	12.2	10,393,185	10,162,741	22.7
うち職員給	6,900,004	7.7	6,552,805	-	-
扶助費	27,357,998	30.4	9,719,061	6,893,746	15.4
公債費	8,062,600	9.0	7,374,712	7,374,712	16.5
元利償還金	8,056,928	9.0	7,369,040	7,369,040	16.5
内 うち元金	7,692,996	8.6	7,011,598	7,011,598	15.7
訳 うち利子	363,932	0.4	357,442	357,442	0.8
一時借入金利子	5,672	0.0	5,672	5,672	0.0
その他の経費	37,040,047	41.2	23,355,942	15,578,901	34.8
物件費	10,914,193	12.1	7,485,566	5,963,178	13.3
維持補修費	1,413,820	1.6	1,226,441	1,226,441	2.7
補助費等	10,046,329	11.2	9,450,710	5,472,188	12.2
うち一部事務組合負担金	4,795,105	5.3	4,793,583	4,166,790	9.3
繰出金	4,995,526	5.6	3,541,115	2,917,094	6.5
積立金	2,064,153	2.3	1,432,844	-	-
投資・出資金・貸付金	7,606,026	8.5	219,266	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	6,474,019	7.2	1,263,886	-	-
うち人件費	163,834	0.2	163,834	-	-
普通建設事業費	6,474,019	7.2	1,263,886	-	-
うち補助	3,294,847	3.7	81,916	-	-
うち単独	2,933,640	3.3	1,123,914	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	89,851,943	100.0	52,106,786	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1	一般会計	91,790	90,252	1,538	1,449	361	68,683	
2	中島公園事業会計	45	45	-	-	40	225	
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								
51								
52								
53								
54								
55								
56								
57								
58								
59								
60								
61								
62								
63								
64								
65								
66								
67								
68								
69								
70								
71								
72								
73								
74								
75								
76								
77								
78								
79								
80								
81								
82								
83								
84								
85								
86								
87								
88								
89								
90								
91								
92								
93								
94								
95								
96								
97								
98								
99								
100								
101								
102								
103								
104								
105								
106								
107								
108								
109								
110								
111								
112								
113								
114								
115								
116								
117								
118								
119								
120								
121								
122								
123								
124								
125								
126								
127								
128								
129								
130								
131								
132								
133								
134								
135								
136								
137								
138								
139								
140								
141								
142								
143								
144								
145								
146								
147								
148								
149								
150								
151								
152								
153								
154								
155								
156								
157								
158								
159								
160								
161								
162								
163								
164								
165								
166								
167								
168								
169								
170								
171								
172								
173								
174								
175								
176								
177								
178								
179								
180								
181								
182								
183								
184								
185								
186								
187								
188								
189								
190								
191								
192								
193								
194								
195								
196								
197								
198								
199								
200								
201								
202								
203								
204								
205								
206								
207								
208								
209								
210								
211								
212								
213								
214								
215								
216								
217								
218								
219								
220								
221								
222								
223								
224								
225								
226								
227								
228								
229								
230								
231								
232								
233								
234								
235								
236								
237								
238								
239								
240								
241								
242								
243								
244								
245								
246								
247								
248								
249								
250								
251								
252								
253								
254								
255								
256								
257								
258								
259								
260								
261								
262								
263								
264								
265								
266								
267								
268								
269								
270								
271								
272								
273								
274								
275								
276								
277								
278								
279								

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	162,460	人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	161,186	人(R6.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	619.34	km ²	実質公債費比率	8.2	%
歳入総額	91,380,281	千円	将来負担比率	22.2	%
歳出総額	89,851,943	千円	市町村類型	R01 IV-1 R02 IV-1 R03 IV-1	
実質収支	1,448,592	千円	(年度毎)	R04 IV-1 R05 IV-1	
標準財政規模	42,662,066	千円			
地方債現在高	68,907,779	千円			

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

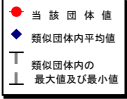
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

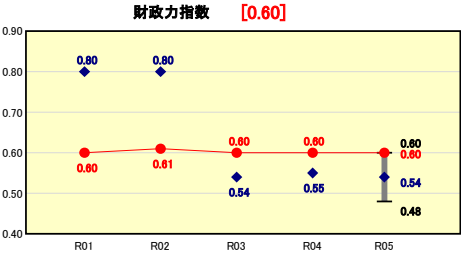
※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスバイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。



財政力

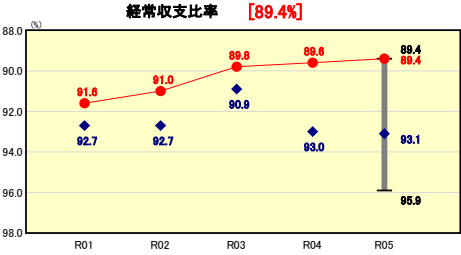


類似団体内順位 1/3 全国平均 0.48 北海道平均 0.27

財政力指数の分析欄

令和5年度については、基準財政収入額及び基準財政需要額がともに同程度増加した結果、前年度と同値となった。
類似団体との比較では、平均を0.06ポイント上回っている。
今後も、収納率を高める取り組みや、産業振興などにより税收の確保を図りながら財政力の強化に努めていく。

財政構造の弾力性

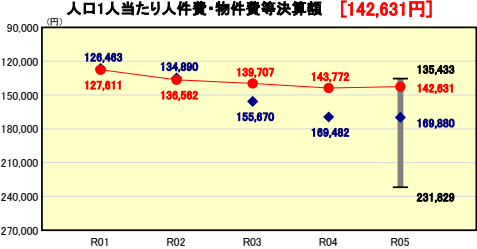


類似団体内順位 1/3 全国平均 93.1 北海道平均 91.6

経常収支比率の分析欄

令和5年度は市税の増加や段階的な定年退職年齢の引き上げにより定年退職者が生じなかったことに伴う人件費の減少などにより、前年度対比で0.2ポイント改善し、類似団体平均よりも3.7ポイント低い比率となった。
今後も行政財政運営改革の取り組み等を通じ、市税収入の確保や、業務の効率化を図るなどして、健全な財政運営に努めていく。

人件費・物件費等の状況

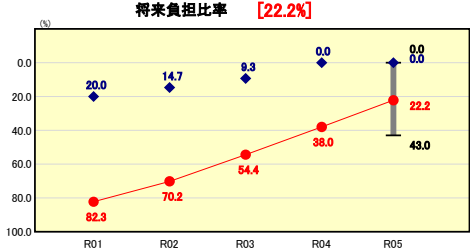


類似団体内順位 2/3 全国平均 158,103 北海道平均 216,027

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

令和2年度の会計年度任用職員制度の導入や物価高騰の影響などにより人件費・物件費ともに増加傾向にあるものの、令和5年度は物件費及び維持補修費の減により、前年度対比では微減となり、類似団体平均も下回った。
今後も、職員の定員管理・給与の適正化などにより引き続き抑制に努めながら、公共施設の管理・運営など、民間でも実施可能な部分については指定管理者制度の導入拡大の検討を進め、効果的な運用を図っていく。

将来負担の状況

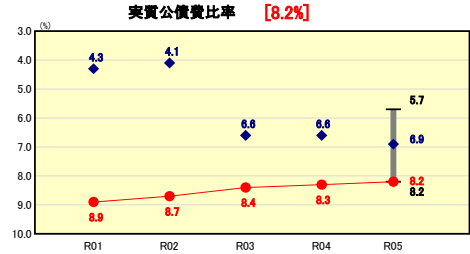


類似団体内順位 2/3 全国平均 6.3 北海道平均 15.7

将来負担比率の分析欄

令和5年度は前年度対比で15.8ポイントの改善となった。類似団体に比べて比率が高い状態が続いているが、これは過去に公共施設の整備等、積極的な投資を行ったことにより市債残高が大きくなっているためであり、近年は計画的な市債発行により市債残高は減少傾向にある。今後も計画的な市債発行に努め、健全な財政運営を行っていく。

公債費負担の状況

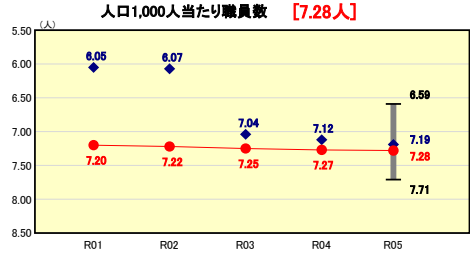


類似団体内順位 3/3 全国平均 5.6 北海道平均 7.1

実質公債費比率の分析欄

計画的な市債借入による元利償還額の減少等により、令和5年度の実質公債費比率は前年度対比で0.1ポイントの改善となったが、類似団体と比較すると依然高い値を示しているため、今後も計画的な市債発行に努め、健全な財政運営を行っていく。

定員管理の状況

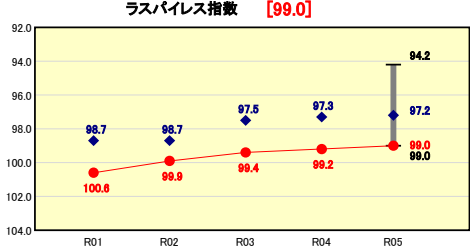


類似団体内順位 2/3 全国平均 8.32 北海道平均 10.48

人口1,000人当たり職員数の分析欄

令和5年度は前年対比で0.01ポイント上昇したが、全国平均及び北海道平均の上昇幅より低い水準に留まっている。
今後も、持続可能なまちづくりに向け、事業の見直しや効率化を図りながら、適正な定員管理に努めていく。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 3/3 全国市平均 98.6 全国町村平均 96.3

ラスバイレス指数の分析欄

類似団体平均に比べ1.8ポイント高い、99.0となっており、前年度の99.2と比べ0.2ポイント減少している。
主な変動要因としては、高給者の退職のほか、組織再編に伴うポスト数の減少や経験年数階層変動が挙げられる。今後も人件費全体の抑制に努めていく。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

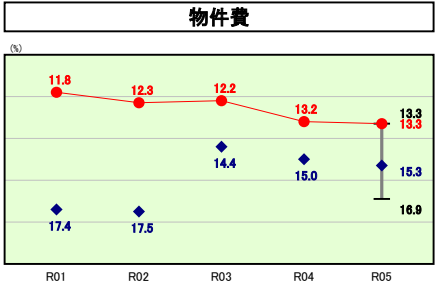
経常収支比率の分析

人	口	162,460	人(R6.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%
うち日本人		161,186	人(R6.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率
面積		619.34	km ²	実	質	公	債	費	比	率	8.2
歳入総額		91,390,281	千円	将	来	負	担	比	率	22.2	%
歳出総額		89,851,943	千円	市	町	村	類	型	R01	Ⅳ-1	R02
実質収支		1,448,592	千円	(	年	度	毎	)	R04	Ⅳ-1	R05
標準財政規模		42,662,066	千円								
地方債現在高		68,907,779	千円								

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

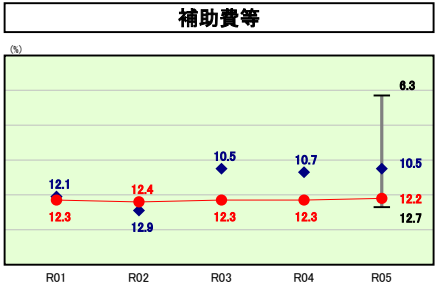


類似団体内順位 1/3 全国平均 15.2 北海道平均 14.0

物件費の分析欄

物価高騰により、燃料費や光熱水費などが高止まりしており、前年度対比で0.1ポイント上昇した。

類似団体平均と比較すると低い値で推移しているが、これは民間事業者への委託料が少ないためであり、今後も民間で実施できる事業等について、検討を進めていく。

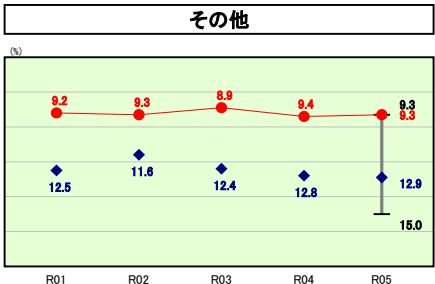


類似団体内順位 2/3 全国平均 10.7 北海道平均 11.3

補助費等の分析欄

市税の増加やごみ処理施設管理運営費分担金の減などにより、前年度対比で0.1ポイント低下した。

類似団体と比べて一部事務組合に対する補助費等が大きいため、類似団体平均より高い値で推移している。

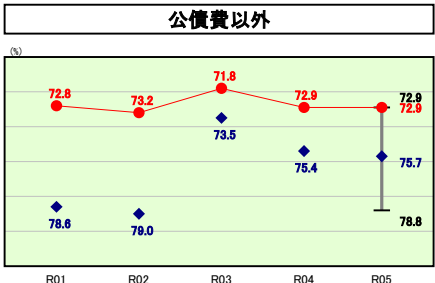


類似団体内順位 1/3 全国平均 12.6 北海道平均 14.5

その他の分析欄

令和5年度は介護保険会計への繰出金などが増加しているものの、除雪費の減などにより、前年度対比で0.1ポイント減少している。

類似団体と比べて他会計への繰出金が少ないことから、類似団体の平均より低い値で推移している。

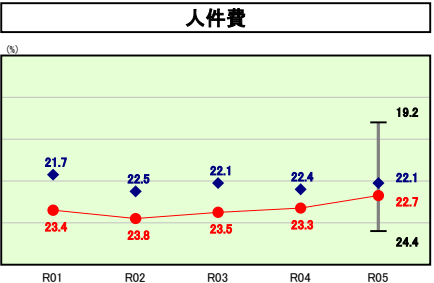


類似団体内順位 1/3 全国平均 77.2 北海道平均 74.0

公債費以外の分析欄

令和5年度の公債費以外の経常収支比率については、前年度と同水準でありが、類似団体と比較して依然低い状況で推移している。

今後も行財政改革の取り組み等を通じ、市税収入の確保や業務の効率化を図るなどして健全な財政運営に努めていく。

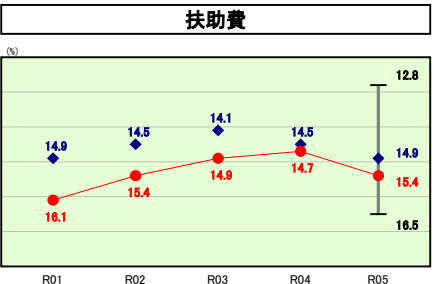


類似団体内順位 2/3 全国平均 25.5 北海道平均 22.4

人件費の分析欄

令和2年度の会計年度任用職員制度導入により、経常経費充当一般財源等が高い水準となっていたが、令和5年度は市税の増加などに加え、段階的な定年退職年齢の引き上げにより定年退職者が生じなかったため、前年度対比で0.6ポイント低下した。

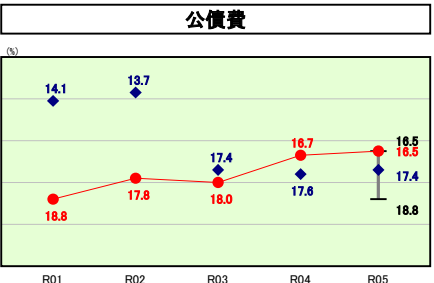
類似団体の平均と比較して依然高い値にあり、今後も職員の定員管理・給与の適正化などにより、人件費全体の抑制に努めていく。



類似団体内順位 2/3 全国平均 13.2 北海道平均 11.8

扶助費の分析欄

令和5年度は、障害者自立支援給付費や生活保護費の増加などにより、前年度対比で0.7ポイント上昇した。類似団体の平均と比べても依然高い値にあり、今後も生活保護者の自立支援プログラムの推進などを通じて改善に努めていく。



類似団体内順位 1/3 全国平均 15.9 北海道平均 17.6

公債費の分析欄

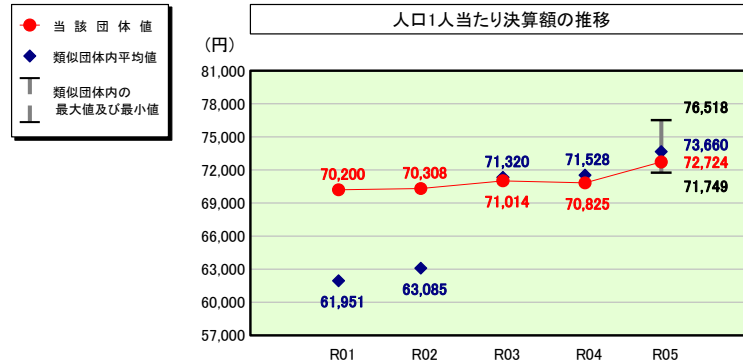
元利償還額の減少により、令和5年度は前年度対比0.2ポイント低下し、類似団体平均を下回った。今後も景気の動向や世代間の負担平準化を考慮しながら、市債の計画的な発行に努めていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和5年度

北海道帯広市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

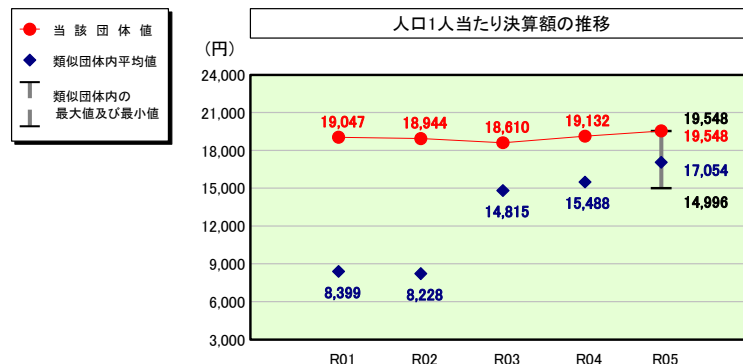
	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	10,917,279	67,200	66,201	▲ 1.5
一部事務組合負担金(補助費等)	515,162	3,171	4,677	▲ 32.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	41,667	256	313	▲ 18.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	1	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	413,995	2,548	3,118	▲ 18.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	163,834	1,008	1,130	▲ 10.8
▲退職金	237,251	1,460	1,780	▲ 18.0
合計	11,814,686	72,724	73,660	▲ 1.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.28	7.19	0.09
ラスパイレス指数	99.0	97.2	1.8

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

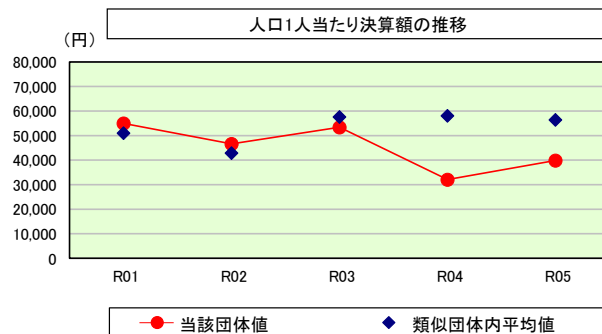
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	8,055,803	49,586	49,770	▲ 0.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	981,299	6,040	7,065	▲ 14.5
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	250,720	1,543	1,221	26.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	614,802	3,784	1,405	169.3
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	1,125	7	2	250.0
▲特定財源の額	2,282,967	14,052	8,112	73.2
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	4,445,079	27,361	34,296	▲ 20.2
合計	3,175,703	19,548	17,054	14.6

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	人口1人当たり決算額 類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
R01	9,126,301	54,963	40.9	51,043	15.0	25.9
うち単独分	1,814,245	10,926	20.9	23,378	0.6	20.3
R02	7,726,293	46,637	▲ 15.1	42,898	▲ 16.0	0.9
うち単独分	2,176,660	13,139	20.3	21,022	▲ 10.1	30.4
R03	8,810,466	53,382	14.5	57,604	34.3	▲ 19.8
うち単独分	3,042,033	18,431	40.3	25,635	21.9	18.4
R04	5,261,393	32,079	▲ 39.9	58,103	0.9	▲ 40.8
うち単独分	1,988,462	12,124	▲ 34.2	25,241	▲ 1.5	▲ 32.7
R05	6,474,019	39,850	24.2	56,415	▲ 2.9	27.1
うち単独分	2,933,640	18,058	48.9	22,190	▲ 12.1	61.0
過去5年間平均	7,479,694	45,382	4.9	53,213	6.3	▲ 1.4
うち単独分	2,391,008	14,536	19.2	23,493	▲ 0.2	19.4

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

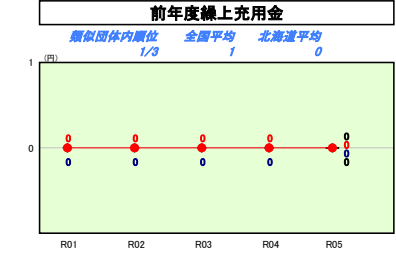
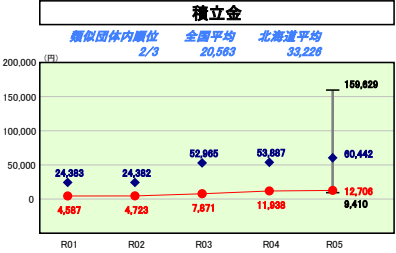
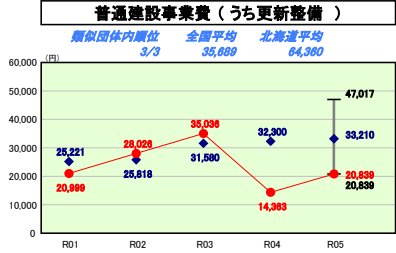
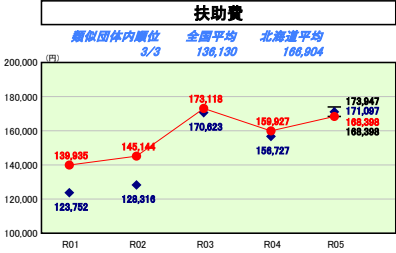
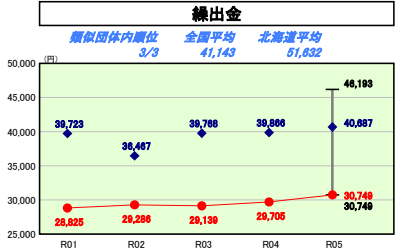
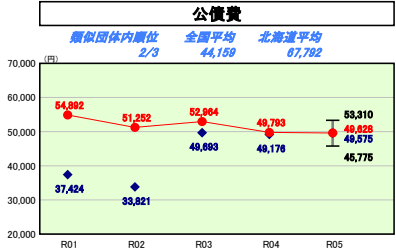
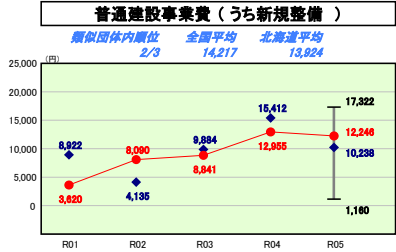
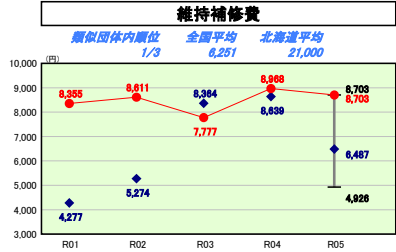
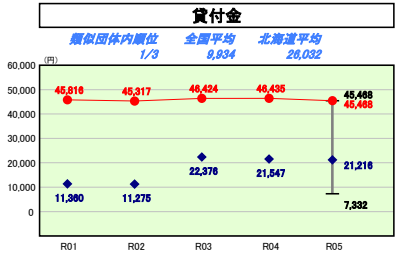
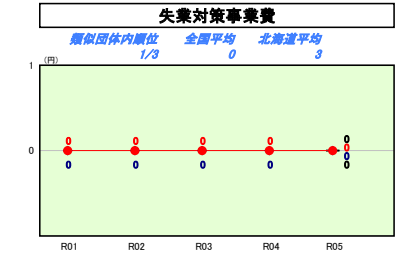
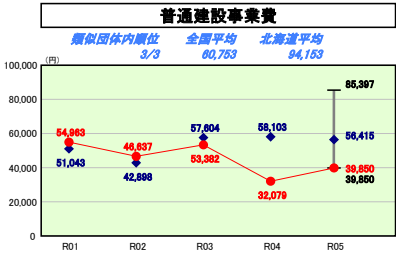
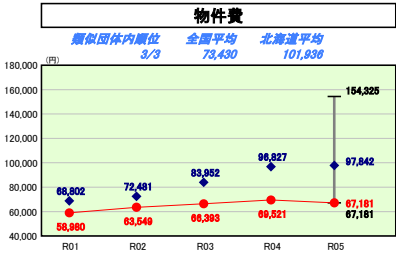
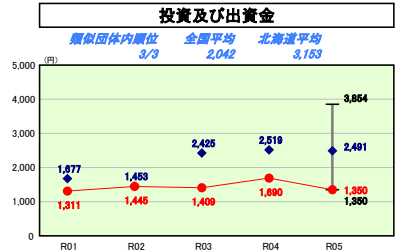
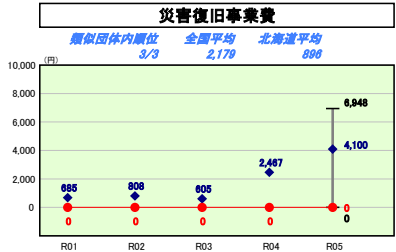
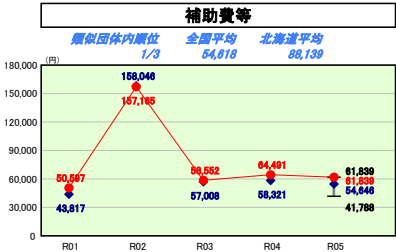
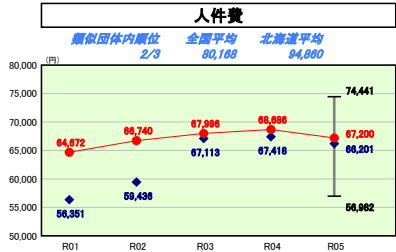
令和5年度

北海道帯広市

人口	162,460人(第1.1順位)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	161,186人(第1.1順位)	通算実質赤字比率	-	%
面積	619.34km ²	実質公債費比率	8.2	%
世帯総数	91,390,281千円	所得負担比率	22.2	%
世帯総額	89,851,943千円	市町村類型	R01Ⅳ-1R02Ⅳ-1R03Ⅳ-1	
実質収支	1,448,592千円	(年度毎)	R04Ⅳ-1R05Ⅳ-1	
標準財政規模	42,662,066千円			
地方債現在高	68,907,779千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析値

人件費については、国の人事院勧告に準じた給与改定により一般職給与等が増加したものの、段階的な定年退職年齢の引き上げに伴い定年退職者の該当者がいなかったため、退職手当が減少した。これにより、前年度対比で減少している。
扶助費については、新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い、受診控えの解消などによる生活保護費等の増加や、物価高騰対策として住民税非課税世帯等に対する給付金を支給したため、前年度対比で増加している。
普通建設事業費については、大空地区の公営住宅建替整備や動物園の獣舎整備等を実施したため、前年対比で増加している。
貸付金が類似団体と比較して大きくなっている要因としては、中小企業の円滑な資金繰りの支援を目的とした中小企業振興融資貸付金や農林育成資金貸付金などを設けているためである。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

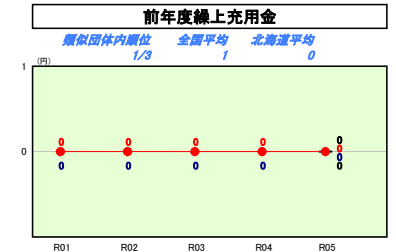
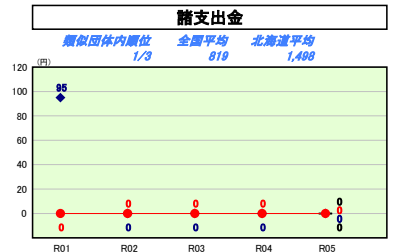
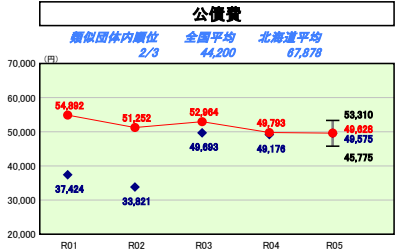
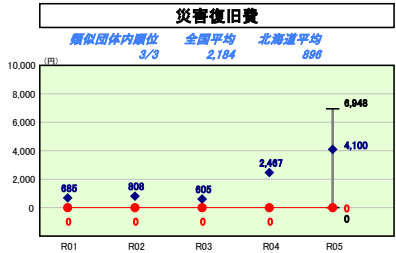
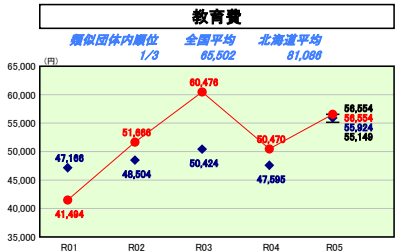
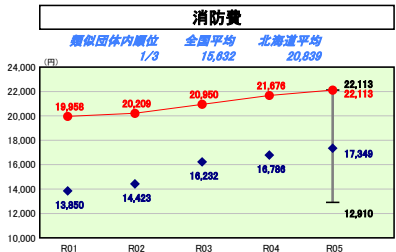
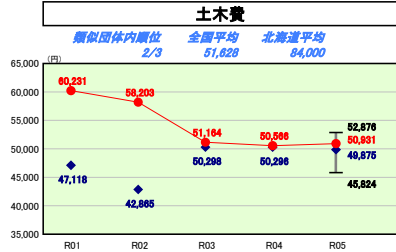
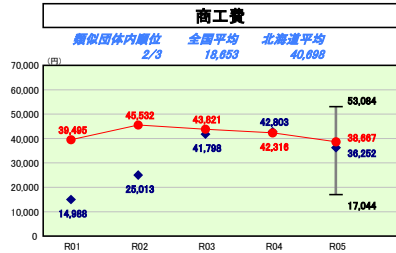
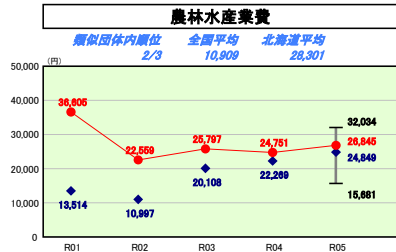
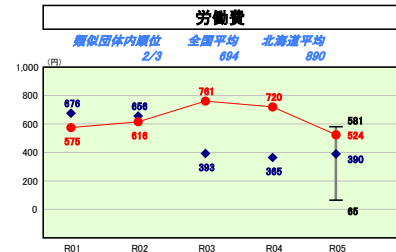
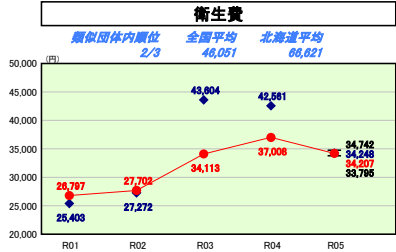
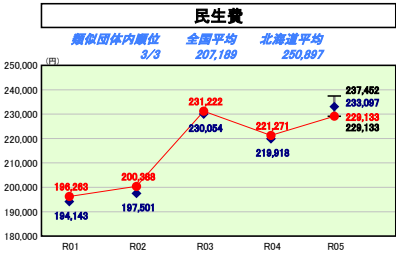
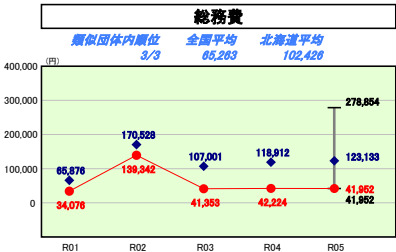
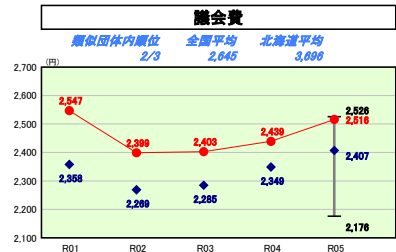
令和5年度

北海道帯広市

人口	162,460人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	161,186人(R6.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	619.34km ²	実質公債費比率	8.2	%
世帯数	91,390,281千円	所得末負担比率	22.2	%
歳入総額	89,851,943千円	市町村類型	R01Ⅳ-1R02Ⅳ-1R03Ⅳ-1	
歳入取支	1,448,592千円	(年度毎)	R04Ⅳ-1R05Ⅳ-1	
標準財政規模	42,662,066千円			
地方債現在高	68,907,779千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

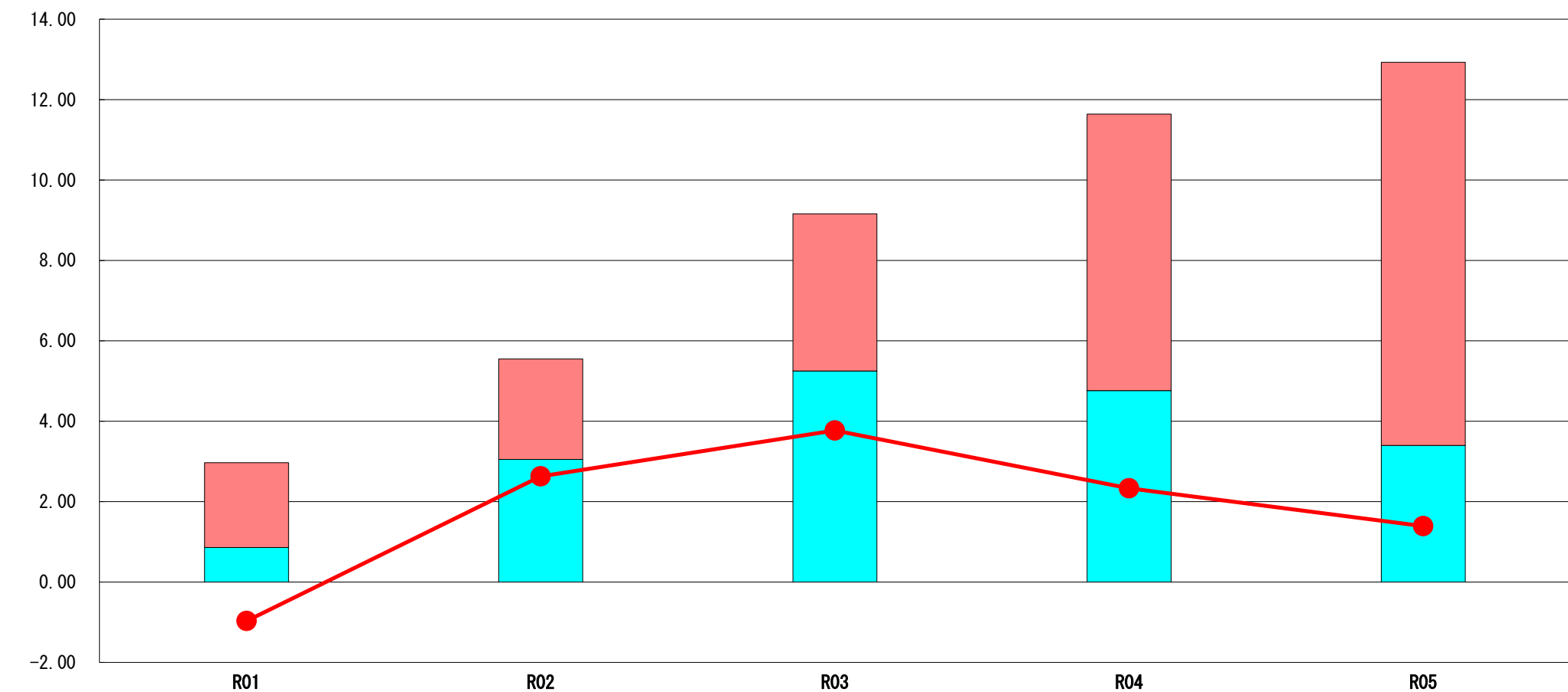
総務費については、令和2年度が、新型コロナウイルス感染症対策として特別定額給付金を支給したことなどにより、大幅に増加していた。
民生費については、令和3年度以降、新型コロナウイルス感染症対策や物価高騰対策として住民税非課税世帯等に給付金を支給しているため、類似団体同様、高い水準で推移している。
衛生費については、令和3年度から新型コロナウイルス予防接種費の開始により大幅に増加したものの、令和5年度は新型コロナウイルスワクチンの接種件数が減少したため、前年対比で減少している。
消防費については、平成26年度から平成27年度にかけて広域化し、平成28年度からは消防に係る人件費等相当分をとかち広域消防局への分担金として支出しているため、類似団体と比較して高い状況にある。
教育費については、動物園整備費の増などに伴い増加している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和5年度

北海道帯広市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		R01	R02	R03	R04	R05
区分	財政調整基金残高	2.11	2.50	3.91	6.88	9.53
	実質収支額	0.86	3.05	5.25	4.76	3.40
	実質単年度収支	▲ 0.97	2.63	3.77	2.33	1.39

分析欄

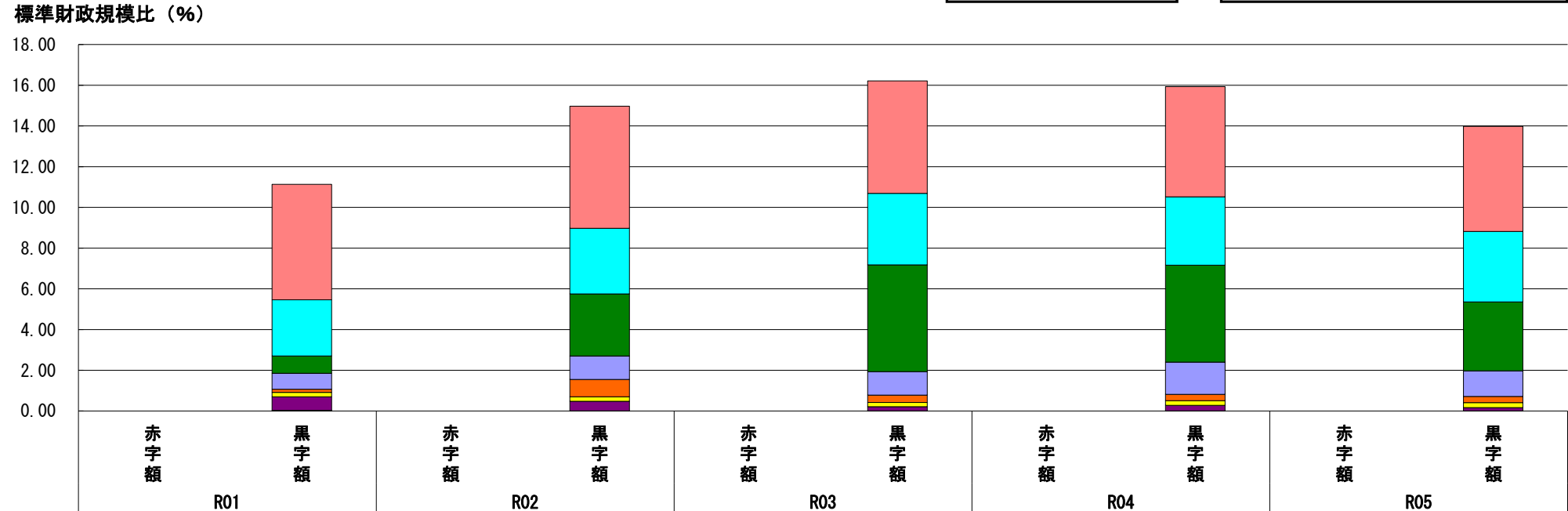
令和5年度の財政調整基金については、令和4年度決算剰余金などから約11億9,200万円を積み立てたことにより、標準財政規模に対する基金残高の割合は、2.65ポイントの改善となった。

標準財政規模に対する実質収支額については、扶助費の増などにより1.36ポイント悪化したほか、実質単年度収支についても、0.94ポイントの悪化となった。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和5年度

北海道帯広市



標準財政規模比（％）

年度		R01	R02	R03	R04	R05
会計						
	水道事業会計	5.67	6.00	5.52	5.41	5.16
	下水道事業会計	2.76	3.22	3.51	3.36	3.46
	一般会計	0.85	3.05	5.25	4.76	3.39
	介護保険会計	0.78	1.15	1.15	1.58	1.26
	ばんえい競馬会計	0.16	0.85	0.36	0.31	0.30
	後期高齢者医療会計	0.21	0.22	0.21	0.23	0.24
	国民健康保険会計	0.67	0.48	0.21	0.28	0.17
	駐車場事業会計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	その他会計（赤字）	-	-	-	-	-
	その他会計（黒字）	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

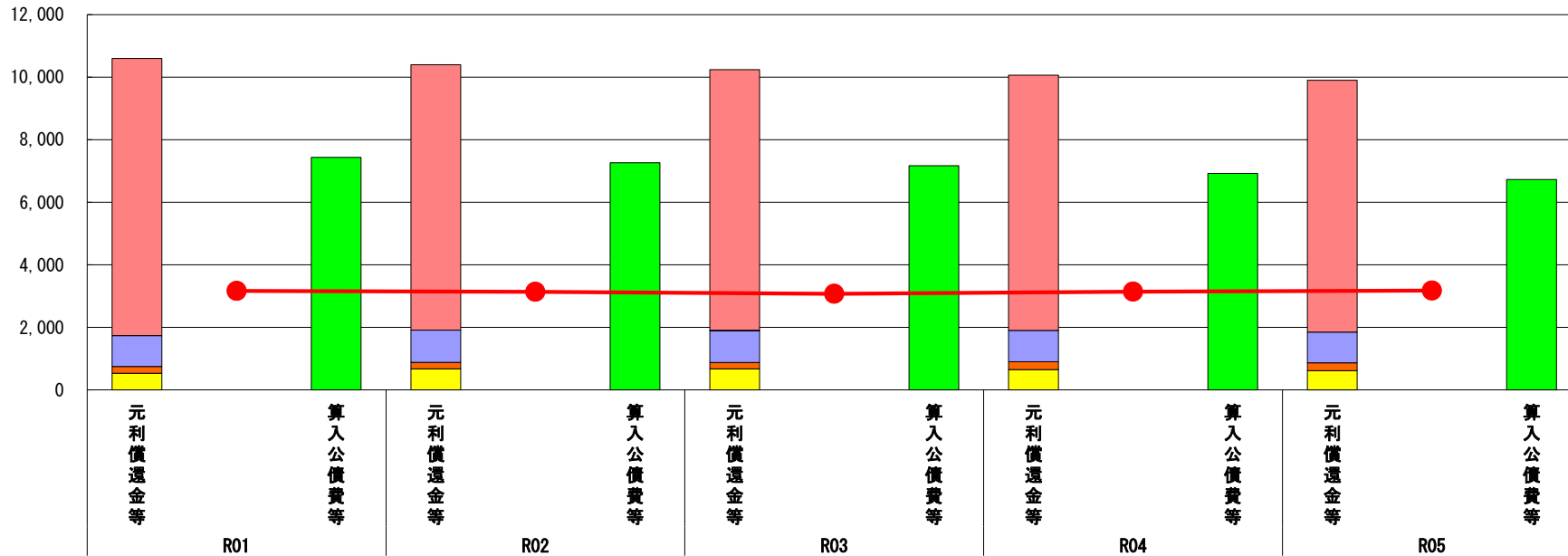
すべての会計において、黒字となっている。今後も収納率の向上に向けた取り組みにより市税収入を確保していくほか、行政サービスの見直しや効率化を図り、健全な財政運営に努めていく。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和5年度

北海道帯広市

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
元利償還金等 (A)	元利償還金		8,862	8,487	8,335	8,160	8,056
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	13	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		991	1,034	1,018	1,004	981
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		214	205	200	251	251
	債務負担行為に基づく支出額		531	674	674	648	615
	一時借入金の利子		0	0	-	0	1
算入公債費等 (B)	算入公債費等		7,435	7,263	7,168	6,925	6,728
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,163	3,137	3,072	3,138	3,176

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D) / (E))

分析欄

令和5年度決算に基づく実質公債費比率は8.2%となっており、令和4年度決算の8.3%より0.1ポイント改善した。
地方債の計画的な発行による元利償還金の減少が改善の要因であるため、引き続き健全な財政運営に努めていく。

（参考）

（百万円）

減債基金積立状況等（注）		年度	R01	R02	R03	R04	R05
減債基金積立状況等（注）	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)						
	前年度末減債基金残高 (D)						
	前年度末減債基金積立相当額 (E)						

（注）減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

分析欄

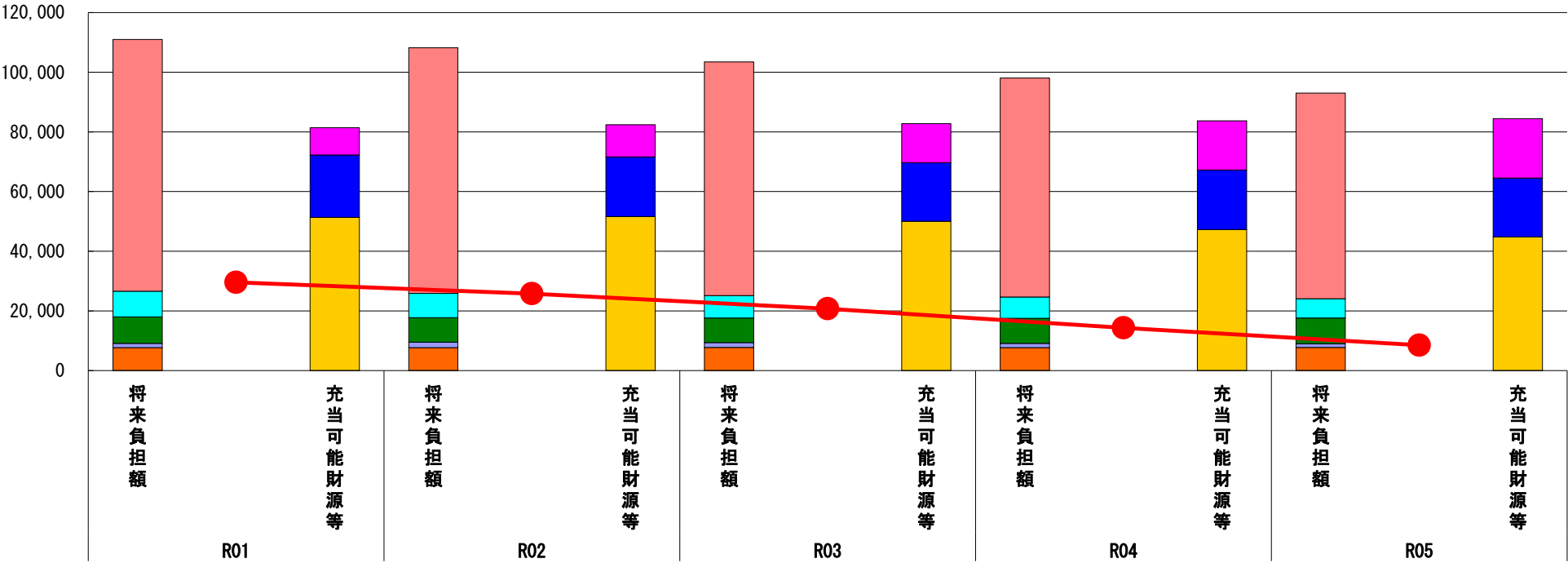
平成26年度以降、減債基金を償還財源とする地方債を発行しておらず、償還も終了している。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和5年度

北海道帯広市

(百万円)



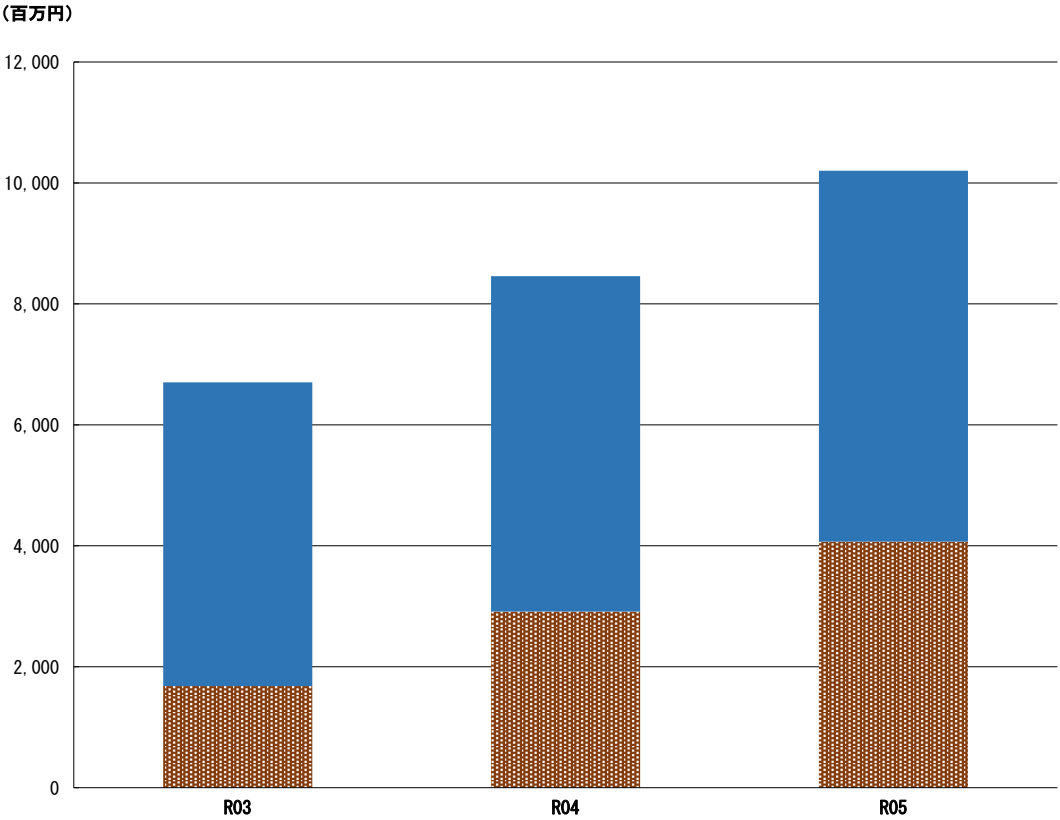
(百万円)

分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		84,332	82,305	78,330	73,379	68,908
	債務負担行為に基づく支出予定額		8,654	8,152	7,545	7,138	6,475
	公営企業債等繰入見込額		8,838	8,186	8,241	8,435	8,605
	組合等負担等見込額		1,465	1,819	1,638	1,394	1,282
	退職手当負担見込額		7,673	7,720	7,730	7,703	7,724
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		9,135	10,750	13,052	16,498	19,942
	充当可能特定歳入		20,879	20,011	19,652	19,948	19,761
	基準財政需要額算入見込額		51,377	51,641	50,055	47,265	44,774
(A) - (B)		将来負担比率の分子	29,571	25,780	20,724	14,338	8,516

分析欄

令和5年度決算に基づく将来負担比率は、地方債残高をはじめとした将来負担額の減少により22.2%となっており、令和4年度決算の38.0%に比べて15.8ポイント改善した。
今後も将来負担額が累増することのないよう健全な財政運営に努めていく。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



		(百万円)		
区分	年度	R03	R04	R05
 財政調整基金		1,681	2,911	4,068
 減債基金		1	1	1
 その他特定目的基金		5,022	5,546	6,132
	高等教育整備基金	3,064	3,065	3,066
	商工観光振興基金	671	616	570
	おびひろ動物園ゆめ基金	238	527	529
	職員退職手当基金	33	33	233
	都市開発基金	226	223	230
基金残高合計		6,705	8,457	10,201

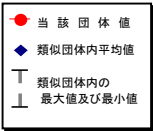
令和5年度	北海道帯広市
基金全体 (増減理由) 財政調整基金への積立額は、前年度決算剰余金に伴う積立額の減により3,700万円減少したものの、スポーツの振興などに充てることを目的としたスポーツ振興基金をはじめとした特定目的基金への多額の寄附があったことなどにより、積立総額は20億6,400万円となり、前年度対比で1億600万円増加した。また、取崩額総額については3億2,000万円であり、前年度対比1億1,500万円増加したが、基金全体の年度末残高は前年度対比で17億4,400万円のプラスとなった。 (今後の方針) 各基金条例で定めている設置目的に沿って、積立て及び取崩しを行っていく。	
財政調整基金 (増減理由) 令和4年度決算剰余金から10億700万円を積み立てたことに加え、普通交付税再算定において追加交付された令和6年度及び令和7年度の臨時財政対策債の元利償還分1億8,500万円を積み立てることなどにより、前年度対比で11億5,700万円の増加となった。 (今後の方針) 財政調整基金については、経済事情の変動や災害による財源不足、大規模な建設事業等に対する備えとなるものであることから、今後も決算剰余金等の積立を行いながら、残高の維持・確保に努めていく。	
減債基金 (増減理由) 定期預金運用による利子の積立てを行っているものの、基金残高が約76万円と少額であるため、大きな変動はない。 (今後の方針) 減債基金は市債の償還財源とするために積み立てるものであるが、今のところ積立てや取崩しの予定はない。	
その他特定目的基金 (基金の使途) 令和5年度末現在で積立額が多い上位5基金について記載。 ・高等教育整備基金：大学など高等教育機関の整備 ・商工観光振興基金：商工業及び観光事業の振興 ・おびひろ動物園ゆめ基金：帯広市動物園の動物展示施設等の整備及び動物の購入 ・職員退職手当基金：一般職の職員の退職手当に充てるため ・都市開発基金：公共施設整備など都市開発事業の推進 (増減理由) スポーツの振興などに充てるスポーツ振興基金を中心に、各基金へ多額の寄附があったことなどにより、その他特定目的基金全体として前年度対比で5億8,600万円の増加となった。 (今後の方針) 各基金条例に定めている設置目的に沿って、積立て及び取崩しを行っていく。	

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

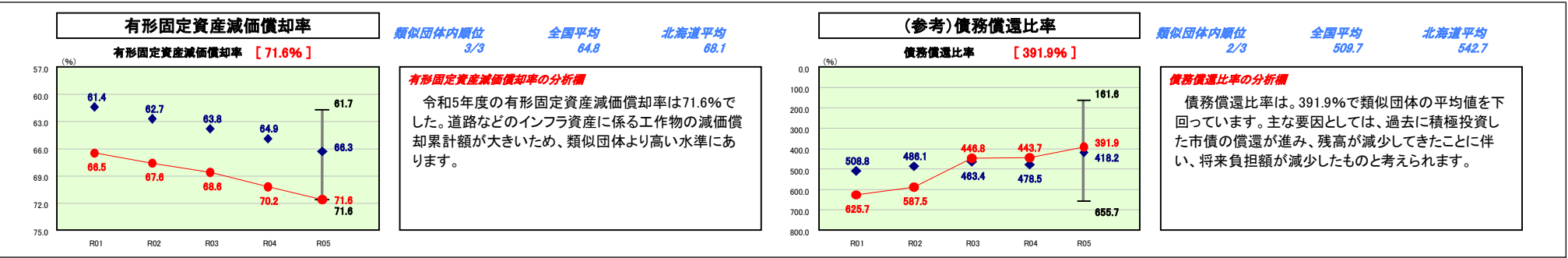
令和5年度

北海道帯広市

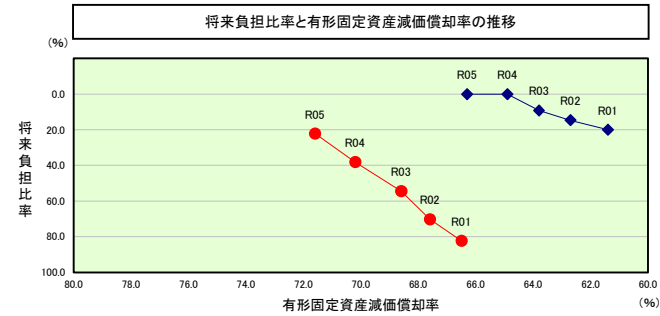
人口	162,460	人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	161,186	人(R6.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	619.34	km ²	実質公債費比率	8.2	%
歳入総額	91,390,281	千円	将来負担比率	22.2	%
歳出総額	89,851,943	千円	市町村類型	R01 IV-1 R02 IV-1 R03 IV-1	
実質収支	1,448,592	千円	(年度毎)	R04 IV-1 R05 IV-1	
標準財政規模	42,662,066	千円			
地方債現在高	68,907,779	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



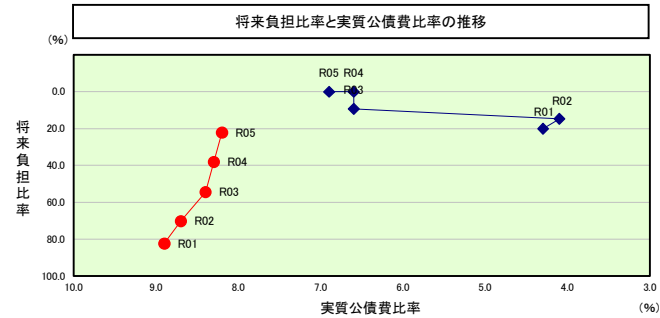
分析欄

将来負担比率は、地方債などの負債額が大きいため、類似団体に比べて高い水準にあります。また、有形固定資産減価償却率については、道路などのインフラ資産に係る工作物の減価償却累計額が大きく類似団体より高い水準にあるため、今後は将来負担の抑制を図りながらも、老朽資産の更新を行っていく必要があります。

(参考)

当該団体値	将来負担比率	82.3	70.2	54.4	38.0	22.2
	有形固定資産減価償却率	66.5	67.6	68.6	70.2	71.6
類似団体内平均値	将来負担比率	20.0	14.7	9.3	0.0	0.0
	有形固定資産減価償却率	61.4	62.7	63.8	64.9	66.3

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

令和5年度の将来負担比率は、市債残高等の減少のため15.8ポイント改善しており、実質公債費率は0.1ポイント改善しました。いずれの指標も類似団体に比べて高い水準にあり、引き続き健全な財政運営に努めていく必要があります。

(参考)

当該団体値	将来負担比率	82.3	70.2	54.4	38.0	22.2
	実質公債費比率	8.9	8.7	8.4	8.3	8.2
類似団体内平均値	将来負担比率	20.0	14.7	9.3	0.0	0.0
	実質公債費比率	4.3	4.1	6.6	6.6	6.9

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

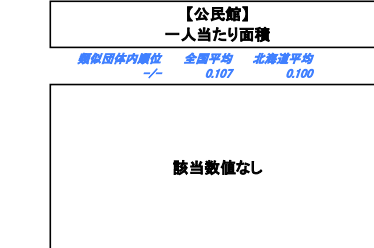
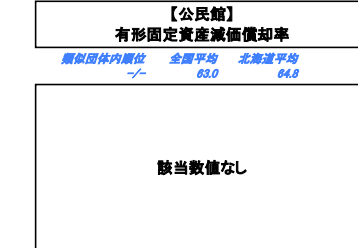
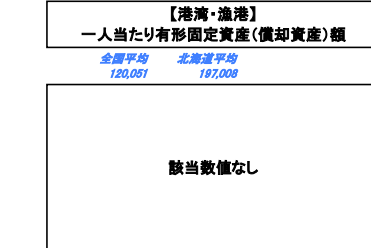
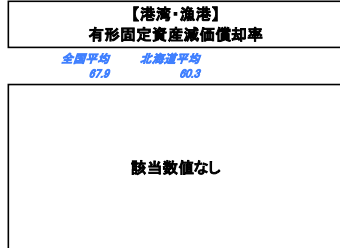
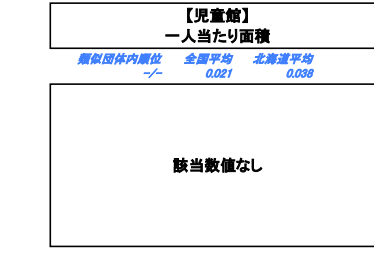
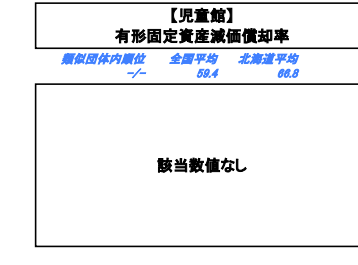
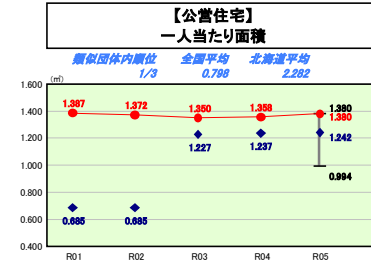
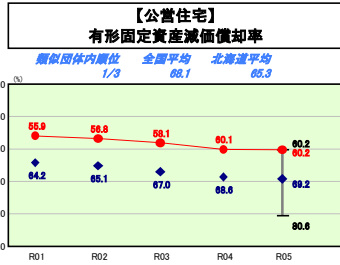
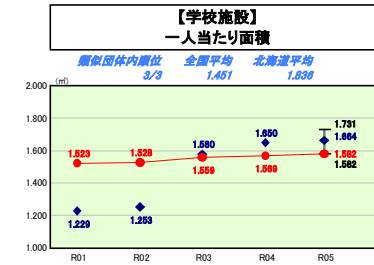
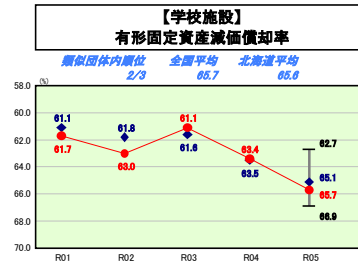
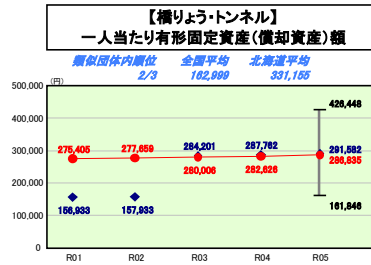
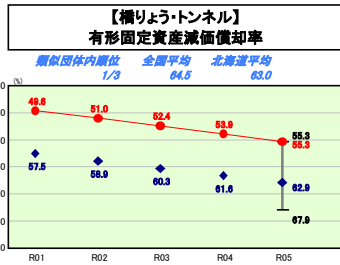
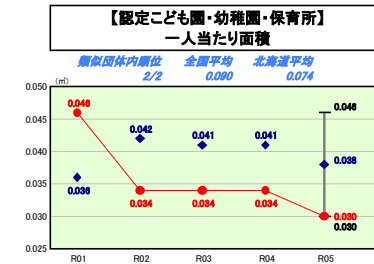
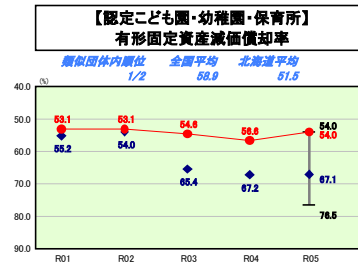
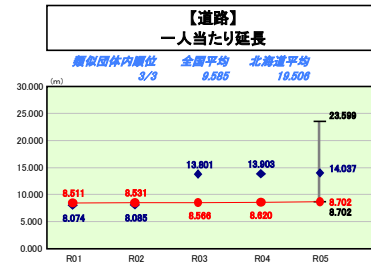
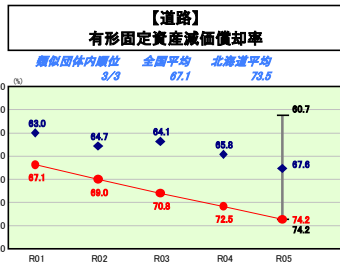
令和5年度

北海道帯広市

人口	162,480	人(国.1.1現在)
うち日本人	161,186	人(国.1.1現在)
面積	619.34	km ²
人口密度	91,390,281	人/km ²
産業	89,861,943	千円
商業	1,446,592	千円
農林	42,682,066	千円
漁業	68,907,779	千円

実質赤字比率	-	%
通算実質赤字比率	-	%
実質公債費比率	8.2	%
将来負担比率	22.2	%
市町村類型	R01 IV-1 R02 IV-1 R03 IV-1	
(年度毎)	R04 IV-1 R05 IV-1	

- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析欄

令和5年度の有形固定資産減価償却率について、類似団体と比較して橋りょう・トンネルや公営住宅などで低くなっているものの、築30年以上を経過している施設も多いことから、計画的に長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減に努めていく必要があります。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

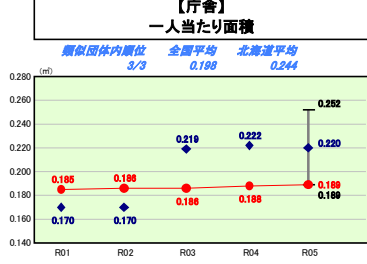
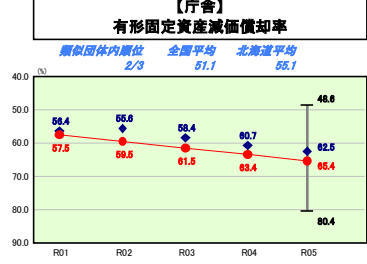
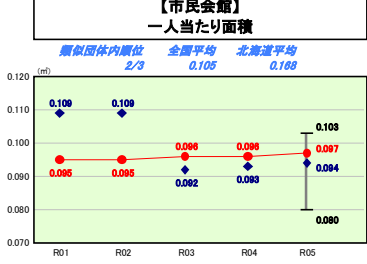
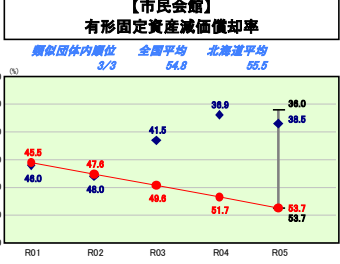
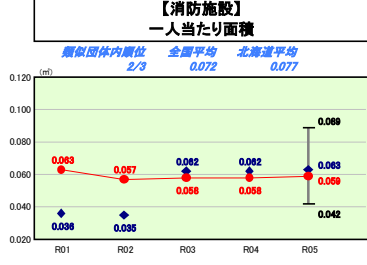
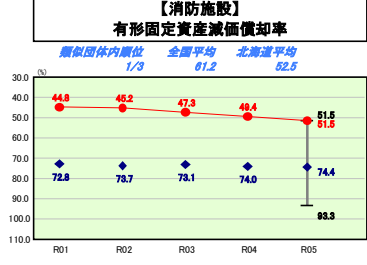
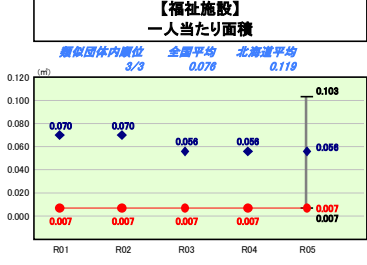
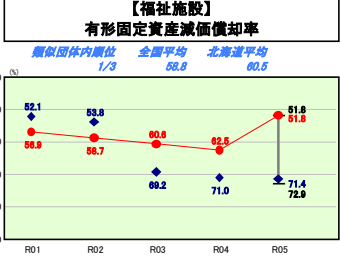
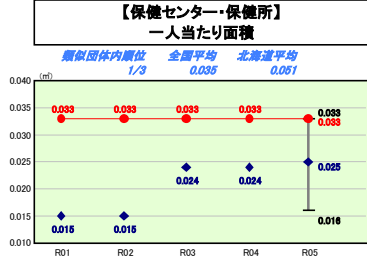
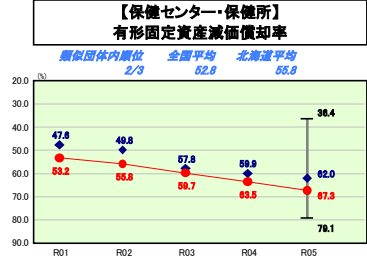
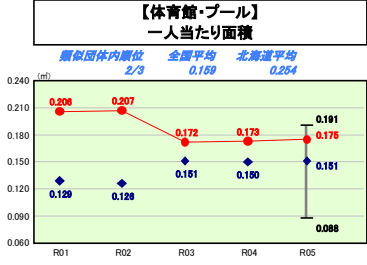
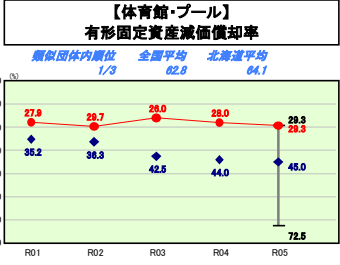
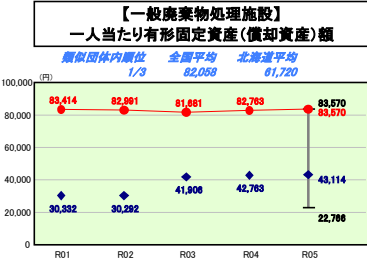
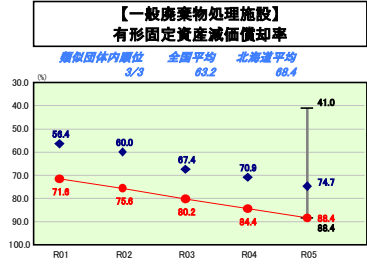
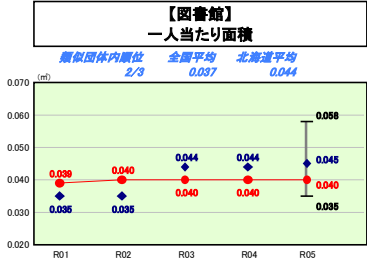
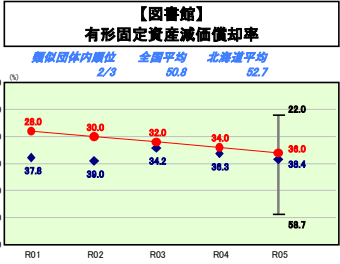
令和5年度

北海道帯広市

人口	162,480人	(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	161,186人	(R6.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	619.34km ²		実質公債費比率	8.2	%
歳入総額	91,390,281千円		将来負担比率	22.2	%
歳出総額	89,861,943千円		市町村類型	R01 IV-1 R02 IV-1 R03 IV-1	
実収支差	1,448,092千円		(年度毎)	R04 IV-1 R05 IV-1	
標準財政規模	42,682,066千円				
地方債残高	68,907,779千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析

令和5年度の有形固定資産減価償却率については、市民会館や一般廃棄物処理施設などが類似団体よりも高い水準となっています。一般廃棄物処理施設については建て替え工事が進んでおり、今後減価償却率は改善するものと見込まれます。